三重県立子ども心身発達医療センター　広報紙

カラフル

2019.9 発行
No.3

目 次

P1 ……あそびは子どもの栄養素
P2·3……センター紹介③
P4 ……摂食·嚥下リハビリについて

カラフルとは、個性豊かな子ども達がその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混ざって新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

あそびは子どもの栄養素

～あそびを用いた発達支援　キャニング(K·A·Ning)クラブ～

子どもの心身の生物学的発達や認知的、社会的発達において、「あそび」は欠かせない栄養素です。乳児期の感覚運動あそびから始まり、親子あそび、お友だちとのあそび、集団でのあそび･･･と続いていく中で、子どもたちは大人への信頼や安心、様々な社会のルール、お友だちとのつきあい方、問題の解決方法などを学んでいきます。

K·A·Ning クラブ

草の実の　K
あすなろの　A
難聴児支援の　N
+CAN（できた!の意味）
をかけ合わせて命名しました♪

しかし、当センターに入院する子どもたちは、様々な心身の疾患や発達上の問題、あるいは養育上の問題から、お友だちと一緒にあそぶ機会が不足していたり、いつもケンカになってしまったり、「みんなであそぶって楽しいな」と感じる集団での成功体験を積んできていないことが多いです。

そこで、当センターでは、入院治療中の子どもたちの発達を支援するために、個々の発達段階や年齢、障害特性に応じて、2～3人の小集団あそびから、10～15人の中集団あそび、職員も合わせて200人にもなるセンター全体活動まで、年間通して10種類以上の集団療育を企画し、子どもたちに「あそび直し」の機会を提供しています。その一番大規模な集団療育が、キャニング(K·A·Ning)クラブです。

R1年5月22日(水)あすなろ病棟の子どもたちが、4種類のチーム対抗ゲームに挑戦し、新しい職員との交流を楽しみました。

子どもたちは、目で見てわかりやすい説明や行動見本、構造化された環境の中で、職員の適切な支援を受けることによって、あそびに最後まで参加できたり、負けても怒らずに再挑戦できたり、トラブルを解決できるようになります。集団あそびでの成功体験を積み重ねることによって、おのずと子どもたちの対人不安や刺激への過敏性、イライラ、暴言、暴力といった問題行動が軽減し、自己肯定感や自信が回復することから、積極的に「あそび」を治療に活用しているのです。

令和元年10月5日(土)には、移転後3回目となる「センター祭」を予定しています。

草の実病棟·あすなろ病棟の子どもたちの日頃の治療·療育の成果をご覧いただくために、子ども·職員が一丸となって準備を進めていきたいと思います。皆さん、どうぞお楽しみに!

理念「子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生を送るために」

センター紹介③

外来発達療育

児童精神科外来の発達療育では、在宅の幼児～小学生のお子さんを対象に、小集団での活動を通して集団適応力や対人スキル、自己肯定感の向上を図り、家庭･園･学校等で安定した生活ができることを目指しています。

発達療育開始までの流れ

診 察

主治医：発達療育の必要性を説明

→

保護者：同 意／発達療育申し込み書

→

発達療育チーム：申込書受付 → 療育開始※

※お子さんの発達段階や課題に応じてグループ編成を行い、待ち期間の長い方から順に療育を開始します。

発達療育の内容

☆形態:3～5名の小集団療育　☆1回の時間:60分　☆期間:週1回　全10回

幼児療育グループプログラム例

- ○手遊び（大きな太鼓、アンパンマンなど）
- ○描画（ドーナツ、顔など）
- ○集団遊び（フルーツバスケット、椅子取りゲームなど）
- ○制作（手作りおもちゃ、折り紙など）
- ○リズム体操、サーキット運動
- ○パネルシアター･紙芝居･絵本など

学童療育グループプログラム例

- ○卓上ゲーム（トランプ、ウノなど）
- ○SST【ソーシャルスキルズトレーニング】（お礼や謝罪、困った時、イライラした時の対処方法等）
- ○集団遊び（へびじゃんけん、転がしドッジボールなど）
- ○お話の練習（出来事や気持ちの伝え方）

ある日の発達療育の様子

Aちゃんは工作で折り紙を上手に折ることができず、怒って泣く姿が見られました。普段の様子からも「てつだって」が言えないようでした。

1 そこで工作の前に「難しいときは職員さんに【てつだって】と言えばいいよ」と、誰にどうやってSOSを出せば良いのかを紙芝居で知らせました。

① 事前説明

2 次に職員を相手に「てつだって」と言う練習をしました。

② ロールプレイで練習

3 そうすることで折り紙を折る時に職員に「てつだって」と言うことができました。職員に手伝ってもらい作品を上手に完成することができました。

③ 実際の工作場面

子どもたちに困った時の対処方法を知らせるときには言葉だけで伝えるのではなく、紙芝居のように絵を用いて事前に説明し、練習をすることが大変効果的です。

センター紹介③

難聴児支援センター

Topics:0歳児グループ「つくしんぼ」について

難聴児支援センターでは、難聴の疑いがある、もしくは難聴と診断された0歳児のお子さんとその家族を対象に、0歳児グループ「つくしんぼ」を毎月2回(月曜日)実施しています。

0歳児のお子さんを持つ保護者同士が交流し、安心して子育てができるような場を提供しています。

活動内容(例)

10:00～	親子遊び
10:20～	スキンシップ遊び、音遊び、親子活動等
10:50～	休　憩
11:00～	保護者向けミニ学習会、講演会 (三重病院耳鼻科医·STによる講演会、先輩保護者による講演会、手話学習、補聴器の管理、難聴擬似体験等)
11:15～	自由解散

風船で遊んじゃおう!

参加されたお子さんの家族の感想

- 親子活動がわかりやすく、どう接していいのかわからなかった私には楽しく過ごせました。
  早くからつくしんぼに参加できて良かったです。
- 心の支えになっていると感じます。
- 体を使って子どもと遊べたり、歌を歌ったり、手話をしながら説明してくれたりと、親子で勉強になりつつ、楽しめる場でありました。
- つくしんぼのような集まりがあり、同じ気持ちの人たちに出会えたことで、心にも余裕ができました。

ママだけでなく、パパやおばあちゃんも参加されています

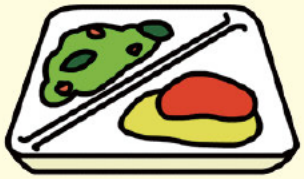
生まれてすぐに行う新生児聴覚スクリーニング検査によって、難聴の疑いがあるかどうかが0歳の段階からわかるようになりました。きこえが気になる0歳児のお子さんであれば、どなたでも参加できます。

今年度も県内各地から0歳児のお子さんとその家族が参加してくれています。行ってもいいのかな?と迷われたら、一度ご連絡ください。

TEL 059−253−2000(代表)　　FAX 059−253−2032
(難聴児支援センター直通)

摂食・嚥下リハビリについて

～リハビリテーション課より～



当センターには、「離乳食がすすまない」「コップが使えない」「食べる姿勢が整いにくい」「どんな食形態が合っているのかわからない」など、多岐にわたる質問相談が寄せられます。

そこで、食べることや飲むことに関しての悩みや心配事があるお子さんやご家族に対して、言語聴覚士（以下ST）が摂食・嚥下リハビリを実施しています。

まず、食べること・飲むことにかかわる摂食機能面（口唇・舌・下顎の動きはどうか、飲みこみの弱さはないか等）について、検査・評価を行い、必要に応じてリハビリを行います。その際には、ご家庭での食事及び園や学校での給食での様子についての情報がとても重要になります。

私たちSTは、摂食機能に合った食形態の調整など、お子さんを取り巻く食環境をととのえることによって発達を促していきます。また、毎日の食事がお子さんやご家族にとって楽しいコミュニケーションの「場」・「時」になるような工夫を一緒に探していくことを大切にしたいと考えています。

食事において、姿勢との関係は重要です。写真のようなお子さんに合った座位保持椅子を使用して、姿勢をととのえることで食事がうまくすすむこともあります。医師やPT・OTなど他職種と相談してどのような工夫が必要か検討していきます。

食器具は、例えば同じスプーンでもボール部の大きさや深み、グリップの形状など様々なタイプがあります。お子さんの発達段階に合うもの、介助がしやすいものなど、目的に合わせて相談しながら選んでいきます。

- リハビリを行うには、診察（完全予約制）が必要となります。
  診察により、リハビリなどの今後の治療方法を決めます。
- リハビリも予約制です。それぞれ担当セラピストとご相談ください。

広報委員より

今年度、新たな顔ぶれで広報委員会スタートしました！ご希望やお気づきの点がありましたら広報委員会までお寄せください。

広報委員（山口・横山・田上・西根）

三重県立子ども心身発達医療センター

〒514-0125　三重県津市大里窪田町340番5
電 話　059-253-2000（代）
FAX　059-253-2031
URL　http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/